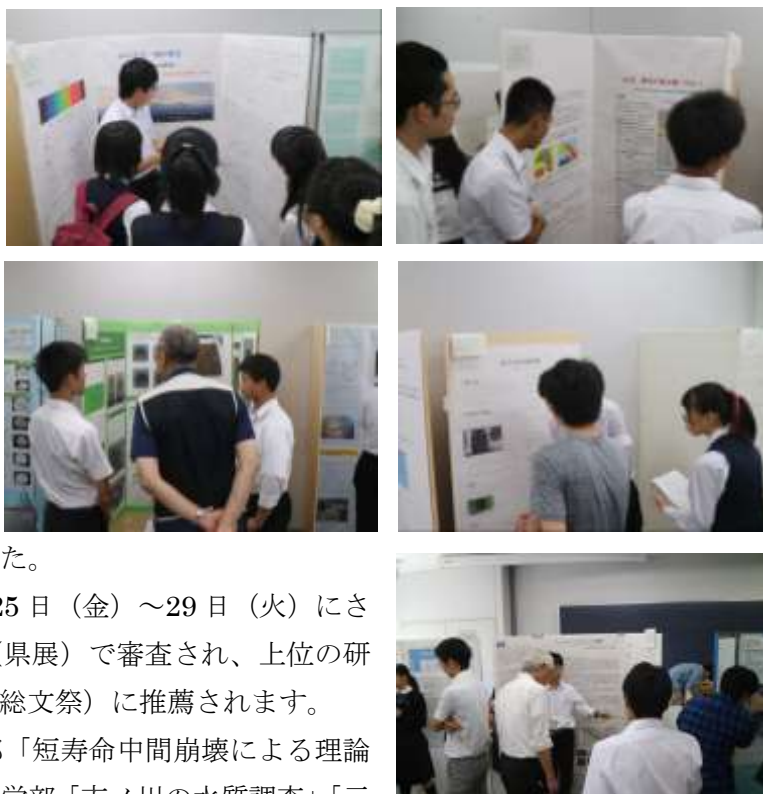


科学展西部地区展が開催される 松高から 10 点出展

9月28日(土)～29日(日)、東洋大学川越キャンパス1号館で埼玉県科学教育振興展覧会(科学展)西部地区展が開催されました。本校からは物理部3点、化学部4点、生物部1点、地学部1点、SS科学探究Ⅱ地学班1点の10点が出展されました。西部地区の7校から全32点の研究の出展があり、28日には各展示の説明とその審査が行われました。松高の研究では、生物部の「アメリカツノウズムシの脅威～ナミウズムシは生き残ることができるか～」というプランナリアの研究が優秀賞となり中央展に推薦されました。その他の研究9点は優良賞となりました。

中央展に推薦された研究(全8点)は、10月25日(金)～29日(火)にさいたま市青少年宇宙科学館で開催される中央展(県展)で審査され、上位の研究が日本学生科学賞や全国高等学校総合文化祭(総文祭)に推薦されます。

なお、優良賞となった研究のタイトルは物理部「短寿命中間崩壊による理論提唱」「乱流と整流子」「人体通信の基礎実験」、化学部「市ノ川の水質調査」「三座配位子を用いた振動反応」「Cu-Sn、Cu-Zn、Sn-Znの電気伝導率の違い」「ポリ乳酸の合成」、地学部「空の青さ、山の青さ～大気による光の散乱の研究」、SS科学探究Ⅱ地学班「なぜ、熊谷の夏は暑いのか?」です。



日本科学未来館研修 未来の自分たちと科学技術、そして環境を考える

9月25日(水)に理数科1年生が日本科学未来館へ研修に行きました。①指定された科学技術について2035年の自分達との関係性を考えるワーク、②自由に選んだ展示から未来の科学技術について考えるワーク、③ボードゲームを通して北極の環境について考えるワークの3つを実施しました。夏休みの特進理数科合宿でも事前研修としてエネルギー問題について考え、議論するワークを行っていたこともあり、当日の研修でも生徒はチームで協力したり議論したりしながら積極的に研修を受けていました。帰りのバスの中で行った研修の振り返りでは、「科学技術には良い面と悪い面の両方があることがわかった」、「理想の未来を実現するためには立場や考え方が違う人達がみんな納得するように話し合う必要がある」などの意見が出されました。

